

みんなの健康を守る下水道

中結城小学校 五年 石原侑那

私は今年、下水道について関心を持つきっかけとなる出来事が二つありました。一つは、春に兄が進学のために家を出て、その時に母が上下水道課に農業集落排水施設使用料変更の届け出に行ったことです。上水はメーターがあつて、使用した分だけ料金を払うのに、下水は排水した量ではなく、基本料と使用人数で料金が決まるそうです。多量に排水する

人と少量しか排水しない人が同じ料金なのはなせかな？と思いました。また、できるだけきれいにしてから排水する場合とひどい汚れのまま排水する場合も同じ料金なのは不公平な気がします。もう一つは、夏休みのお手伝いで、私が家の排水ますを掃除する担当になつたことです。ふだんは祖父が排水ますの掃除をしてくれていますが、夏休みの間は私が掃除をすることになりました。生活排水は家中では壁の中の配管を通り、家の外でも

地下に埋められた下水管を流れるため、あまり人目に付くことはありません。マンホールのふたに「汚水」とか「雨水」と書いてあるのを見てたまに意識するくらいです。でも下水道はみんなの健康を守る大事な役割があることを学び、緑の下の力持ちだと思いました。かゝと昔、地球の人口が少ないころは、当然下水道はありませんでした。人々は川や地面に穴を掘って排泄していました。そのした方法でも、自然が持つ浄化作用の大きさより人々が汚すスピードの方が遅かった。ので、環境が悪化するとはなかつたそうです。しかし産業革命以降、急激に人口が増えて、また都市に人々が集中したことで、自然の浄化作用が追いつかなくなりました。ヨーロッパでは各家にトイレがなく、おまるなどに排泄し、満杯になると窓から捨てていました。窓の下は川だけでなく、道路のこともあり、歩いていて上から屎尿が降ってくることもひんぱんにあったようです。しかもそのまま道は

たに放置されたので、悪臭もひどく、コレラ  
やチフスなどの伝染病も流行していました。  
工場排水もそのまま川に流され、テムズ川は  
ガブ川と呼ばれていました。

チンギス汗はクリミア戦争におもむき  
スクタリの病院での兵士の死亡率は、戦地で  
のそれにくらべて七倍も高いことを突き止め、  
その原因が不衛生な環境のせいであることを、  
統計学を用いて証明しました。野戦病院の床  
の下には不潔な汚水が流れていて、そのせい

で兵士たちが次々に感染症で命を落としまし  
た。しかし衛生環境を改善したことで、たっ  
た三か月で、兵士の死亡率を約四十パーセン  
トから約五パーセントにまで引き下げました。  
一方日本では、すでに弥生時代に下水道の  
がい念があったそうです。それ以降も都では  
排水網が整備されてきました。水の都と呼ば  
れる江戸の町でも下水整備がされており、現  
代でも通用するくらいのスマートシティだっ  
たそうです。江戸は埋め立て地で湿地が多く、

雨が降ればすぐに水浸しになってしまいうたため、速やかに、雨水を排水する必要があり下水が発達したそうです。これらのことから住環境や自然環境を汚さないように配りよし、健康に安心して住み続けられる街づくりのため、上水道と同じくらい下水道はとても重要であることわかりました。

排水ますは一週間に一回は食器用洗剤とブラシでこすり洗います。使用後のお皿は紙ナプキンで汚れを拭きとってから洗うようにしていますか、それでも油汚れがあります。

トイレについては、循環式トイレが実用化されていきます。風呂水や台所排水もひん回を手入れが不要で、環境に影響の少ない仕組みが、できると良いと思います。そうすれば忙しい家の人でも障がい者や高齢者なども安心して暮らせると思っています。

人々の健康を守っている下水道が百パーセント普及し、そしてより良い仕組みになっていくと良いなと思います。